

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第52集

# 大田切I遺跡

静 岡 市

国道1号清水立体埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

静岡県埋蔵文化財センター



# 序

静岡平野・清水平野には数多くの遺跡が存在しています。この地域を東西に横断する国道1号静清バイパスの建設工事に伴って、多くの遺跡の発掘調査が実施されました。大田切I遺跡は清水平野に立地するこれらの遺跡のひとつであり、昭和57年度に清水市教育委員会によって発掘調査が実施されています。調査の結果、掘立柱建物跡や溝などの遺構が検出され、中世の陶磁器等が出土しました。この調査結果から、大田切I遺跡はこの地域の中世の有力豪族である飯田氏の居館に関係する遺跡と推測されています。

今回実施した発掘調査の対象地は、昭和57年度の発掘調査箇所の南西部に近接しています。調査の結果、溝と杭列が検出されました。溝は昭和57年度の発掘調査で検出された溝とつながり、同一のものである可能性が高いものです。杭列は昭和57年度の調査でも検出されており、建物を区画するもの、あるいは地形の落ち込みに沿って打ち込まれたものと考えられます。この杭列を構成する杭は、ノコギリによる切りこみが残るものや、枘穴のある建築部材を転用したものが見られます。今回の調査によって、調査対象地は建物跡の西側に掘り込まれている溝の範囲に当たること、そしてこの溝がより南へ延びていることが明らかになりました。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、国土交通省中部地方整備局ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2016年2月

静岡県埋蔵文化財センター所長

赤石達彦

## 例　　言

- 1 本書は静岡県静岡市清水区八坂西町・高橋1丁目に所在する大田切I遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は国道1号清水立体埋蔵文化財発掘調査業務として、国土交通省中部地方整備局の委託を受け、静岡県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 大田切I遺跡の本発掘調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。  
本発掘調査 平成27年7～9月 調査対象面積265m<sup>2</sup> 実掘面積130m<sup>2</sup>  
資料整理 平成27年10月～平成28年2月
- 4 調査体制は以下のとおりである。  
所長 赤石達彦 次長兼総務課長 田中雅代 調査課長 中鉢賢治  
主幹兼事業係長 杉山智彦 主幹兼総務係長 大坪淳子  
主幹兼調査係長 富樫孝志 主幹 中川律子 主査 岩崎しのぶ
- 5 本書の執筆は、第1章～第3章、第5章を岩崎、第4章を東北大学名誉教授鈴木三男（敬称略）が行った。
- 6 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
- 7 発掘調査・資料整理にあたっての業務の外部委託先は以下のとおりである。  
掘削業務委託 大橋工業株式会社  
測量業務委託 株式会社フジヤマ  
整理作業・保存処理業務委託 株式会社パソナ
- 8 発掘調査では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。  
河合 修 鈴木三男（五十音順・敬称略）
- 9 発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

## 凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第VII系を用いた国土地標、世界測地系を基準とした。
- 2 遺構図、遺物実測図の縮尺はそれぞれにスケールを付した。
- 3 色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色図」（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。
- 4 第1章第1図の大田切I遺跡位置図は国土地理院発行1:50,000地形図「清水」を、第2章第1節第3図の周辺地形図は大日本帝国陸地測量部発行1:50,000地形図「清水」（明治22年測図）を、第2章第2節第4図の周辺遺跡分布図は国土地理院発行1:25,000地形図「清水」を複写し加工・加筆した。

# 目 次

## 序・例言・凡例

第1章 調査に至る経緯 ..... 1

## 第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境 ..... 3

第2節 歴史的環境 ..... 4

## 第3章 大田切 I 遺跡の調査

第1節 調査の方法と経過 ..... 8

第2節 基本層序 ..... 9

第3節 遺構 ..... 10

第4節 出土遺物 ..... 15

第4章 静岡市大田切 I 遺跡出土木杭の樹種 ..... 17

第5章 まとめ ..... 19

## 写真図版

## 抄録

## 挿図目次

第1図 大田切 I 遺跡位置図	1	第7図 3区全体図	11
第2図 調査区配置図	2	第8図 4区全体図	12
第3図 周辺地形図	3	第9図 4区杭列SX01実測図	13
第4図 周辺遺跡分布図	7	第10図 5区全体図	14
第5図 基本土層柱状図	9	第11図 出土遺物実測図	16
第6図 全体図（3区・4区・5区）	10	第12図 大田切 I 遺跡全体図	20

## 挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5	第3表 出土遺物一覧表（土器）	15
第2表 発掘調査・資料整理期間工程表	8	第4表 出土遺物一覧表（木製品）	15

## 挿写真目次

写真1 大田切 I 遺跡出土木製品顕微鏡写真 18

## 図版目次

図版1 大田切 I 遺跡遠景（西から）	図版3 4区 杭列SX01 検出状況（北から）
大田切 I 遺跡全景（3区・4区・5区）	4区 杭列SX01 杭4 検出状況
図版2 3区 溝SD01 完掘状況（東から）	図版4 出土遺物
3区 溝SD01 土層断面	

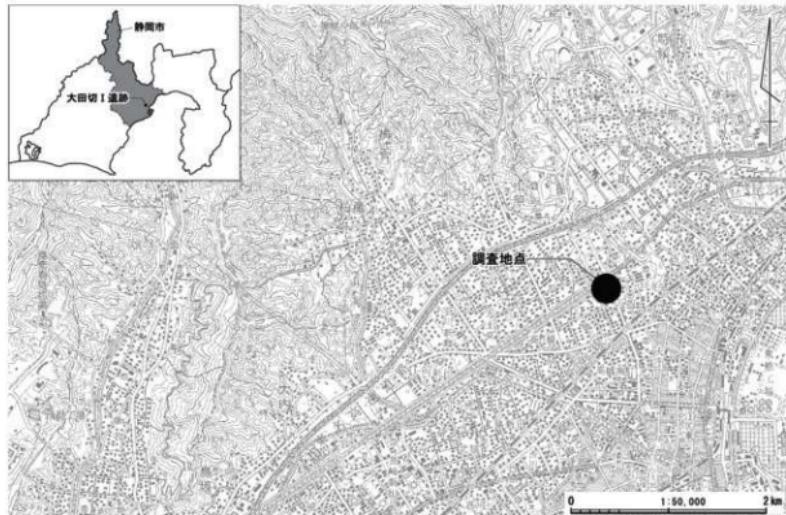
# 第1章 調査に至る経緯

静清バイパスは静岡県清水区興津東町から同市駿河区丸子までを結ぶ国道1号バイパスである（第1図）。

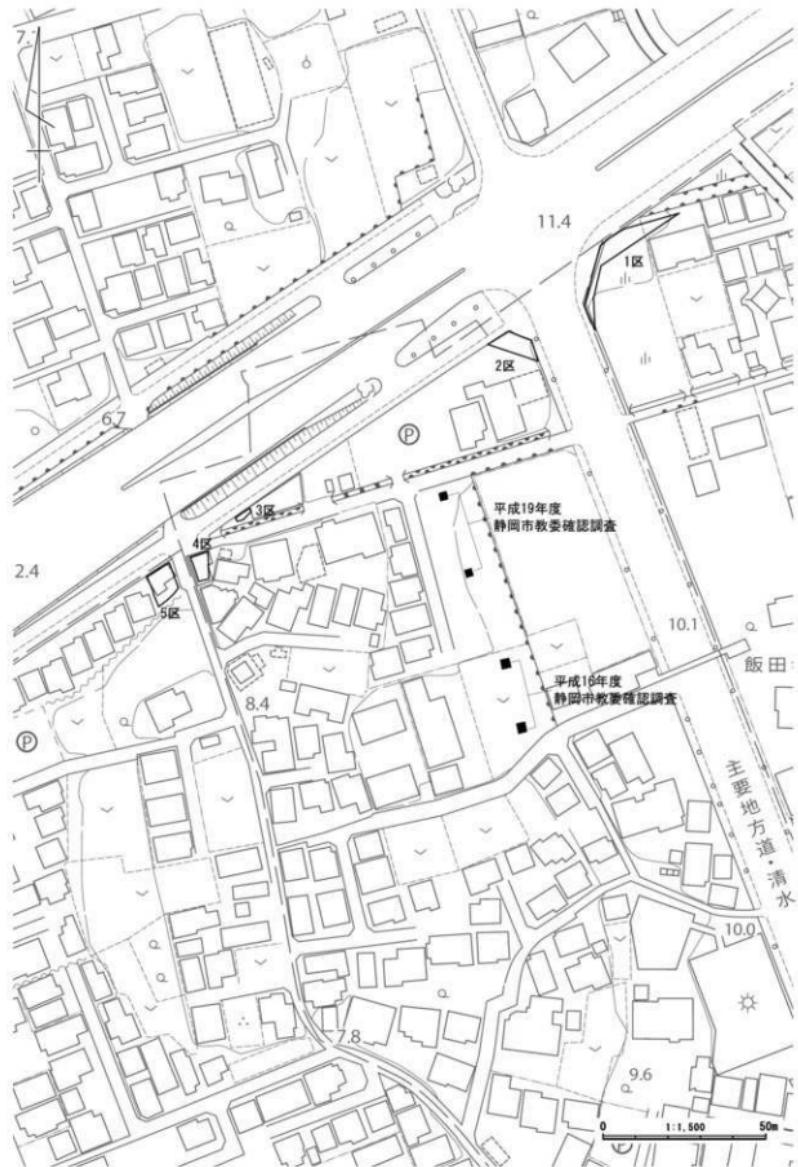
国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所（以下国交省静岡国道事務所）は、静清バイパスの全線4車線化・高架化工事の一環として清水立体工事を計画した。平成19年度、国交省静岡国道事務所は静岡県教育委員会文化課（平成22年度に文化財保護課に課名変更）の事業照会に対し、この事業を計画していると回答した。文化課は工事計画範囲における周知の埋蔵文化財包蔵地の存在の有無を調べた結果、工事計画範囲内に大田切1遺跡が含まれていることが明らかとなり、国交省静岡国道事務所に文化課との調整が必要であることを回答した。

平成24年12月、文化財保護課は工事対象地のうち、3区（第2図）において確認調査（1次）を実施した。この結果、溝が検出され、土器片が出土した。工事によって遺跡が破壊されることから、文化財保護課は記録保存を目的とした本発掘調査が必要であると判断し、国交省静岡国道事務所にこの旨を報告した。平成25年11月、2区において確認調査（2次）を実施した。この結果、遺構及び遺物は検出されなかった。道路の対岸にある1区についても同様の状況が想定され、また対象地の現状から地盤が搅乱されている可能性が想定されたことから、1区と2区については本発掘調査の対象地から外し、3区・4区・5区の本発掘調査を実施することとした。

平成27年5月、国土交通省中部地方整備局と静岡県は国道1号清水立体埋蔵文化財発掘調査業務委託を締結した。発掘調査は静岡県埋蔵文化財センターが実施する運びとなった。県埋文センターは平成27年7月から9月まで本発掘調査を実施した。



第1図 大田切1遺跡位置図



第2図 調査区配置図

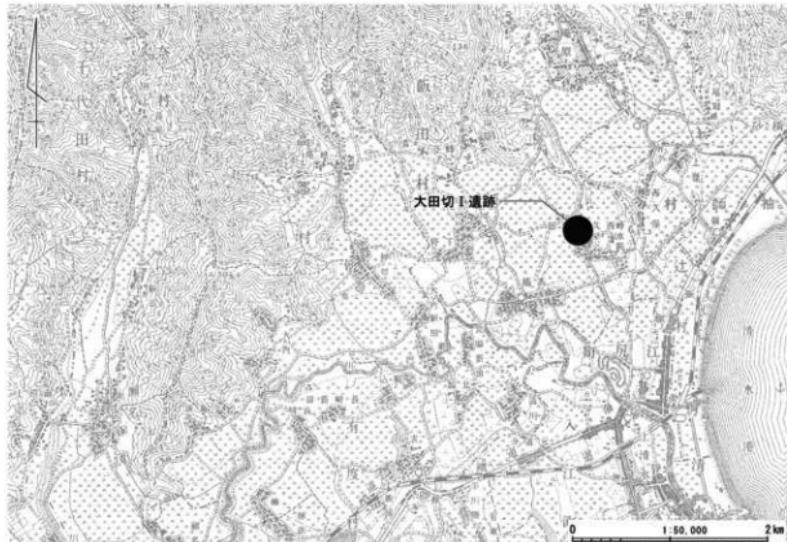
## 第2章 遺跡の概要

### 第1節 地理的環境

大田切Ⅰ遺跡は、静岡県静岡市清水区八坂西町及び高橋1丁目、JR清水駅より北西に約1.5km離れた地点に位置し、清水平野と呼ばれる標高5～7mの沖積平野の北東部に立地している。(第1図)。この地域はかつて水田地帯であったが、現在は宅地化が進んでいる。

北側を庵原山地、南側を有度山に挟まれた清水平野は、東の海岸線に沿って拡がりを見せている。海岸線に沿って3～4本の浜提列が南北に走り、浜堤の西側は巴川低地と呼ばれ、かつては古折戸湾が内深く侵入した入り江であったが、海退現象によって陸化された。巴川低地の中央を西から東に向かって巴川が流れている。巴川は静岡市葵区にある浅畑沼を源とする延長約22kmの河川であるが、河口との落差がわずか5.5mという緩い傾斜で流れている。明治～大正期にかけての河川改修工事により現在は直線化されているが、かつては60余りに蛇行していたと言われる。旧河道は現在も三日月形の痕跡や旧村境をもってその跡をたどることができる。曲流した旧巴川は、北側の山地から流入する山原川、和田川、捨川等の小河川の堆積により、周辺に小扇状地や自然堤防を造っている。巴川流域にある遺跡は、このような扇状地や自然堤防上の微高地に立地している。

本遺跡は、庵原山地に接する牛王堂山丘陵・舟山丘陵・秋葉山丘陵と連なる低独立丘の裾部が西側にわずかに張り出した、標高約8mの微高地に立地している(第3図)。



第3図 周辺地形図

## 第2節 歴史的環境

### 1 調査履歴

本遺跡は昭和57年度に静清バイパス建設工事に伴って発掘調査が実施されている（静岡県教委・清水市教委1984）。この調査の結果、掘立柱建物跡、柵列、溝、土坑、井戸等の遺構が検出された。遺物は縄文時代後期後半と弥生時代後期の土器、古墳時代後期から律令期の土師器、陶磁器が出土した。遺構に伴って出土したのは主に12世紀前葉から15世紀中葉の陶器である。

また、今回の調査対象地の南東部は、平成16年度と19年度に静岡市教育委員会によって確認調査が実施されており（第2図）、ともに遺構は検出されず、遺物も出土しなかったことが報告されている（静岡市教委2005・2008）。

### 2 周辺の遺跡

本遺跡が立地する清水平野は多くの遺跡が分布している地域である。東名高速道路、静清バイパス建設工事の際には、これに伴って大規模な発掘調査が実施されている（第4図）。

本遺跡と同じく、静清バイパス建設工事に伴って清水市教育委員会による発掘調査が実施された遺跡は、下野遺跡（A・B・C地区）（79・80・81）と飯田遺跡（久保田地点・向原地点）（82・83）があげられる。飯田遺跡は昭和24年に判官大島地点（84）で明治大学によって発掘調査が実施され、駿河湾地域における弥生時代後期中葉の土器型式「飯田式土器」の標識遺跡とされた遺跡である。また、土地区画整理事業に伴って、清水市教育委員会が昭和54年から57年、61年にかけて向原地点（83）で実施した発掘調査では、弥生時代後期の円形周溝墓と報告されている溝をはじめ、数百基の土坑墓により構成される墓域が検出された。静清バイパス建設工事に伴う発掘調査では、下野遺跡（B地区）（80）では、縄文時代後期中葉の土器と漆塗りの櫛が出土した。下野遺跡（A地区）（79）では、弥生時代中期の土器と木製品が出土した。下野遺跡（C地区）（81）と飯田遺跡（久保田地点・向原地点）（82・83）では、弥生時代後期後葉から古墳時代前期の遺物が出土した。また、飯田遺跡（久保田地点）（82）では、平安時代末の灰釉陶器が出土した（静岡県教委・清水市教委1984・1985）。

本遺跡の南西約2km先にある能烏遺跡（90）は、同じく静清バイパス建設工事に伴って、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所によって発掘調査が実施された遺跡である。調査の結果、弥生時代中期後半から後期の方形周溝墓27基が検出され、この他に鎌倉時代の居館跡の一部と推定される方形の区画、あるいは旧巴川の流路と考えられる埋没河川が検出された（静岡県埋蔵文化財調査研究所1989）。その後の静岡市教育委員会による発掘調査では、新たに弥生時代中期後半の方形周溝墓4基と、平安時代と近世の墓が検出された（静岡市教委2010）。

東名高速道路建設工事の際には、清水平野では本遺跡の北西約1.7km先にある石川II遺跡（87）の発掘調査が実施されている。調査の結果、堅穴住居跡、水路遺構等が検出され、弥生時代後期から古墳時代前期の土器等の他、石鉗、灼骨が出土した（静岡県教委1968）。その後の清水市教育委員会による発掘調査で、水田の畦畔や旧河道が検出され、遺物も弥生時代中期の土器や、平安時代末～鎌倉時代初頭の灰釉陶器、山茶碗が出土するなど、長期にわたって継続する遺跡であることが明らかになっている。本遺跡の北方約700m先にある牛王堂山丘陵では、牛王堂山第1古墳（56）、第2古墳（57）、牛王堂山I遺跡（58）の発掘調査が実施されている。牛王堂山I遺跡では弥生時代後期の堅穴住居跡15棟と方形周溝墓2基、平安時代末の堅穴住居跡14棟等が検出された（静岡県教委1968）。牛王堂山第1古墳の北方には、「君宜高官」銘を有する三角縁神獣鏡が出土した牛王堂山第3古墳（55）が築造されている。

本遺跡の北東約400m先にあり、午王堂山丘陵の南に連なる舟山丘陵では、東名高速道路清水インター チェンジ建設に伴って、船山遺跡（59）の調査が実施され、弥生時代の土坑と思われる遺構が確認された。丘陵の西端部には山ノ根遺跡（60）があり、清水市教育委員会による発掘調査で、弥生時代後期から古墳時代前期の堅穴住居跡と溝が検出された（清水市教委2000）。本遺跡の東方約600m先にあり、舟山丘陵の南に連なる秋葉山丘陵の東斜面には秋葉山古窯跡群（65）、南端部には秋葉山1号墳～3号墳（66～68）がある。

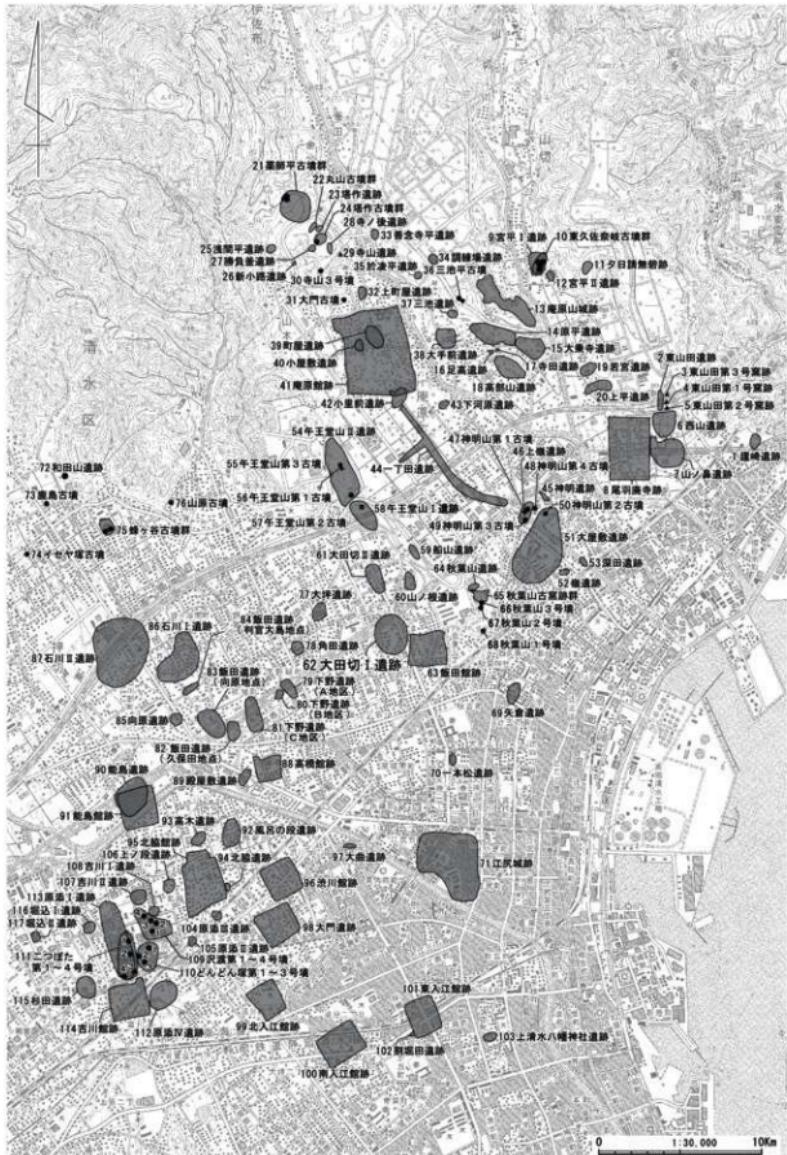
本遺跡の南東部には飯田館跡（63）が隣接している。地籍図等に方形の区画が見えることや古地名から中世館跡と推定された。鎌倉時代初期、石橋山の戦、富士川の戦で活躍が伝えられる飯田五郎家義・五郎父子の館跡と考えられている。清水平野は庵原館跡（41）をはじめ、高橋館跡（88）、渡川館跡（96）など、多くの中世館跡の存在が伝承されている地域である（静岡県教委1981）。

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	文化財の年代							備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	
1	鹿町遺跡					○			S48発掘調査
2	東山田遺跡		○	○	○				H89確認調査
3	東山田第3号古墳								H18発掘調査
4	東山田第1号古墳					○			S39発掘調査
5	東山田第2号古墳			○	○				S40発掘調査
6	西山遺跡			○					H120,H121発掘調査
7	山ノ森遺跡	○		○	○	○			S46,H16,H17,H12発掘調査
8	尾羽廻寺跡			○	○				S25,S26,S46,H2～H4,H7～H11発掘調査 H5,H12,H13,H16,H17,H20～H25確認調査
9	宮平1号墳		○	○					S34,S56,S61発掘調査 H7確認調査
10	東久佐奈谷古墳群			○					S26,S34,S49,S56発掘調査
11	夕日浦遺跡						○		H89確認調査
12	官平1号墳	○	○						S55発掘調査
13	塙原山古墳						○		
14	原平遺跡	○	○	○	○			○	H17発掘調査 H10,H124確認調査
15	大乗寺古墳	○	○		○		○		S38発掘調査 H2～H4確認調査
16	足道遺跡			○					
17	寺田遺跡	○	○	○	○	○			
18	萬部山遺跡		○	○	○				H2,H5発掘調査
19	若宮遺跡			○					
20	上平道跡		○					○	H13発掘調査
21	薬師平古墳群				○				S46発掘調査 H7,H12,H13,H18確認調査
22	丸山古墳群				○				
23	鶴作遺跡		○						H18発掘調査
24	塔作古墳群				○				H18発掘調査
25	浅間平道跡		○						
26	新小路遺跡						○		H17確認調査
27	勝負釜遺跡				○				H18確認調査
28	寺ノ後遺跡	○							H14,H15確認調査
29	寺山遺跡						○		H13確認調査
30	寺山3号墳			○		○			H14発掘調査
31	大門古墳			○					
32	上町尾遺跡					○			H25,H26確認調査
33	普吉寺平道跡		○						H11確認調査
34	調練場跡		○		○				H11発掘調査
35	於渡平道跡		○						H11発掘調査
36	三地平古墳				○				S33,S57,H7～H9発掘調査
37	三堆遺跡				○				
38	犬手前遺跡			○					
39	町屋遺跡			○					H25確認調査
40	小堀敷遺跡	○							
41	庵原鉢跡				○	○			H16,H23,H25,H26確認調査
42	小里前遺跡	○	○	○	○	○			H4,H15確認調査
43	下河原遺跡				○				
44	一丁田遺跡		○	○	○	○	○		H22～発掘調査
45	神明遺跡	○	○	○	○				H16,H17発掘調査
46	上畠遺跡	○	○	○					S42,S52,H15,H17発掘調査 H14確認調査
47	神明山第1古墳				○				S42,H12発掘調査
48	神明山第4古墳				○				S40,H13発掘調査 H14確認調査
49	神明山第3古墳				○				S42発掘調査

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	道路名	文化財の年代						備考	
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	
50	神明山第2古墳				○				
51	大屋敷道路		○		○				H12,H14,H21,H23,H25確認調査
62	竪堀道路				○				
53	深田道路				○				
54	牛王堂山1号道路	○	○	○	○				H26確認調査
55	牛王堂山第3古墳				○				S48,H26確認調査
56	牛王堂山第1古墳				○				S39発掘調査
57	牛王堂山第2古墳				○				S39発掘調査
58	牛王堂山1号道路	○	○	○	○	○			S39発掘調査
59	船山道路		○	○	○				S39発掘調査
60	山ノ根道路		○	○	○				H11発掘調査 H21確認調査
61	大田切Ⅱ道路		○	○	○	○			H26確認調査
62	大田切Ⅰ道路	○	○	○	○	○	○		S57発掘調査 H16,H19確認調査
63	飯田道路						○		
64	秋葉山道路						○		H4確認調査
65	秋葉山古墳群				○				S25,H16,H15,H17~H19確認調査
66	秋葉山3号墳				○				H3確認調査
67	秋葉山2号墳				○				H3確認調査
68	秋葉山1号墳				○				H3確認調査
69	矢倉道路				○				
70	一本松道路				○				H25確認調査
71	江尻城跡						○		H4,H19,H20,H26確認調査
72	和田山道路					○			
73	鹿島古墳				○				
74	イセツ塚古墳				○				
75	藤ヶ谷古墳群				○				
76	山原古墳				○				
77	大坪道路				○				
78	角田道路				○				
79	下野道路（A地区）				○				H16,H21確認調査
80	下野道路（B地区）				○				S56,S60,H8発掘調査 H7確認調査
81	下野道路（C地区）				○	○			S57発掘調査 H6,H21,H24確認調査
82	飯田道路（久保田地点）				○	○	○	○	S56,S57,H5発掘調査
83	飯田道路（向原地点）				○	○			S54~S57,S61発掘調査 H16,H23確認調査
84	飯田道路（利岡大島地点）				○	○			S24発掘調査
85	向原道路				○				
86	石川丁道路				○				H12,H16,H24,H25確認調査
87	石川Ⅱ道路				○	○			S49,S48,S61,H5~H12,H15,H16発掘調査 S63,H1,H14,H25確認調査
88	高橋駒跡						○		H11確認調査
89	高尾敷道路				○				
90	高鳥道路				○	○	○	○	S60,H19,H25発掘調査
91	高鳥駒跡						○		
92	風呂川一段道路				○				
93	高木道路				○				
94	北畠的道路						○		H9,H14,H19,H25,H26確認調査
95	北畠道路						○		
96	赤川駒跡						○		H6,H26確認調査
97	大曲道路				○	○			
98	大門道路						○		
99	北入江道路						○		H22確認調査
100	南入江道路						○		H24確認調査
101	東入江道路						○		H22,H24確認調査
102	鶴坂丁道路				○	○	○		
103	上滑水八幡神社道路				○	○	○		
104	原添田道路				○	○			
105	原添田Ⅱ道路				○				
106	上ノ段道路				○				
107	吉川Ⅱ道路					○			H25確認調査
108	吉川Ⅰ道路				○	○	○	○	
109	沢渡第1~4古墳				○				
110	どんどん塚第1~3古墳				○				
111	二つぼた第1~4古墳				○				
112	原添田Ⅳ道路				○	○			
113	原添田Ⅴ道路				○				S36発掘調査 H6,H26確認調査
114	吉川駒跡								H14,H26確認調査
115	利田道路				○				
116	駒込Ⅰ道路					○			
117	駒込Ⅱ道路					○			H8確認調査



第4図 周辺遺跡分布図

# 第3章 大田切Ⅰ遺跡の調査

## 第1節 調査の方法と経過

### 1 発掘調査

平成27年7月22日から3区と4区においてバックホウによる表土除去を実施した。表土除去後、人力で包含層を遺構確認面まで掘削した。3区では溝SD01、4区では杭列SX01が検出された。8月3日に4区、18日に3区の実測作業を実施した。実測作業は、杭列SX01は手実測で、溝SD01と各調査区の土層断面図及び地形図はトータルステーションを用いて行った。記録写真は6×7モノクロネガフィルム及び6×7カラーリバーサルフィルムを用いて撮影した。8月5日に5区においてバックホウによる表土除去を実施したところ、調査区の大部分において地盤改良材が埋設されていることを確認した。この範囲については、表土より下層の掘削は不可能であると判断し、地盤改良材が埋設されていない範囲のみ調査を実施した。8月20日にラジコンヘリコプターによる調査区全景の写真撮影を実施した。その後、3区SD01の追加調査と5区の実測作業を実施し、9月4日に発掘調査は終了した。8月27日と9月4日に4区、9月4日と7日に3区と5区において、バックホウによる埋め戻し作業を実施した。

### 2 資料整理

遺物洗浄、注記、記録類の整理は、本発掘調査期間中に基礎整理作業として掘削業務委託業者が実施した。

資料整理は平成27年10月に開始した。出土した土器は分類・仕分け・接合・実測作業を経て、実測図をコンピュータに取り込み、Adobe Illustrator CS 3によってトレース・版組作業を実施した。木製品は実測作業の後、実測図をコンピュータに取り込み、Adobe Illustrator CS 3によってトレース・版組作業を実施した。また、東北大学名誉教授鈴木三男氏の御協力をいただき、木製品の樹種同定を実施した。木製品はこれらの整理作業を経て、保存処理を実施した。遺構図版は記録図面及びトータルステーションのデータをコンピュータに取り込み、Adobe Illustrator CS 3によってトレース・版組作業を実施した。それと並行して遺物写真撮影及び写真図版作成作業を実施した。遺物写真は6×7モノクロネガフィルム及び6×7カラーリバーサルフィルムを用いて撮影した。遺物と記録類の版組作業終了後に編集作業を行っている。また、報告書の作成とともに、収納作業も実施している。

第2表 発掘調査・資料整理期間工程表

平成27年度											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
			■	■	■						
						---	---	---	---	---	---

現地調査 ■

資料整理 ---

## 第2節 基本層序

本遺跡の層序は以下のとおりである。

### 第1層 表土

第2層 搅乱土 近現代の瓦、コンクリート片等を多く含む。

第3層 黄褐色土 10YR 5/6 しまりあり。粘性なし。10~30mm大の礫を多く含む。

第4層 褐灰色シルト 10YR 5/1 しまりあり。粘性ややあり。

第5層 褐灰色シルト 10YR 5/1 しまりあり。粘性ややあり。第4層に比して砂質。10~30mm大の礫を少量含む。

第6層 褐灰色砂質土 10YR 5/1 しまりなし。粘性なし。10~20mm大の礫を含む。

第7層 暗灰黄色シルト 2.5Y 4/2 しまりあり。粘性なし。植物遺存体を含む。

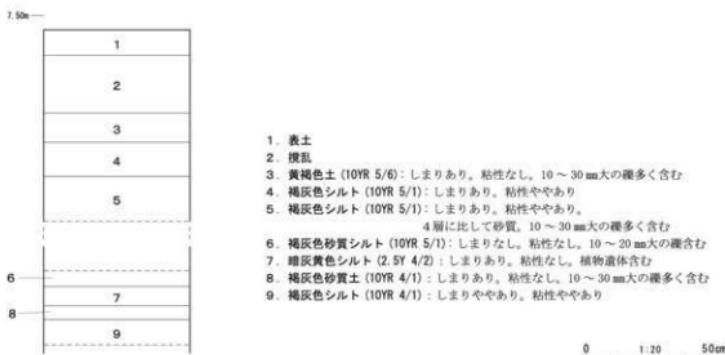
第8層 褐灰色砂質土 10YR 4/1 しまりあり。粘性なし。10~30mm大の礫を多く含む。

第9層 褐灰色シルト 10YR 4/1 しまりあり。粘性ややあり。

発掘調査前は3調査区とも個人住宅が建築されていた。このため、表土直下の層は3調査区とも著しく搅乱されていた。

第3層から第5層は3区で確認された層である。第4層以下は湧水が著しく、下層の掘削は不可能であった。

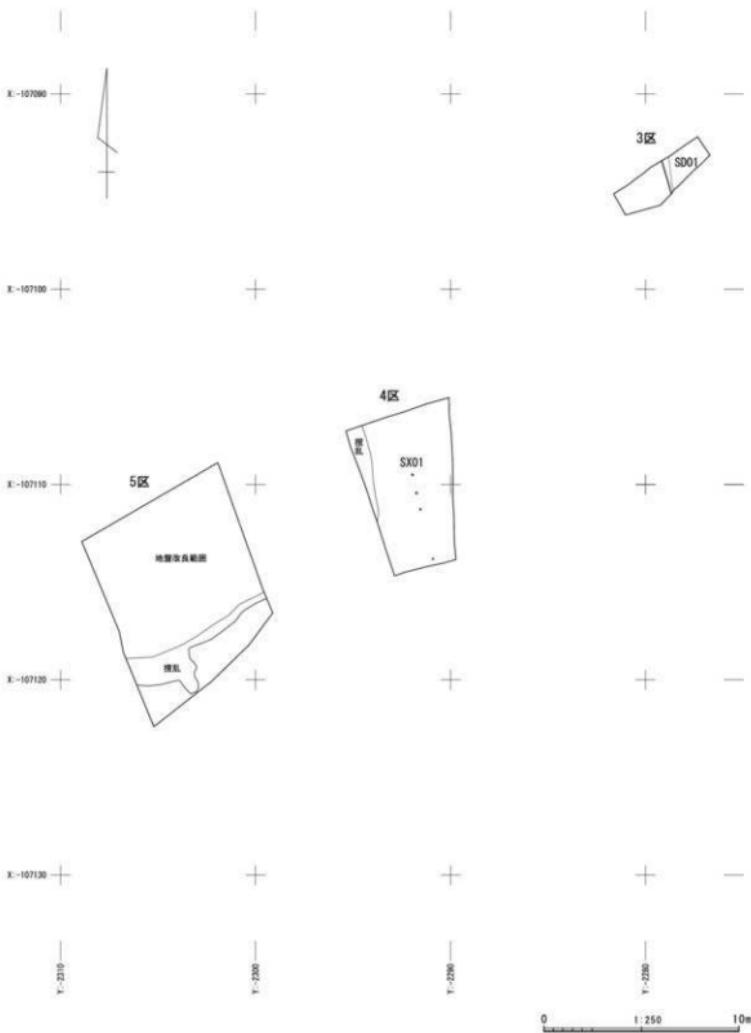
第6層以下は4区で確認された層である。4区ではこれより上層は搅乱により削平されていた。このため、第5層から第6層の間の中間層の存在については確認できなかった。



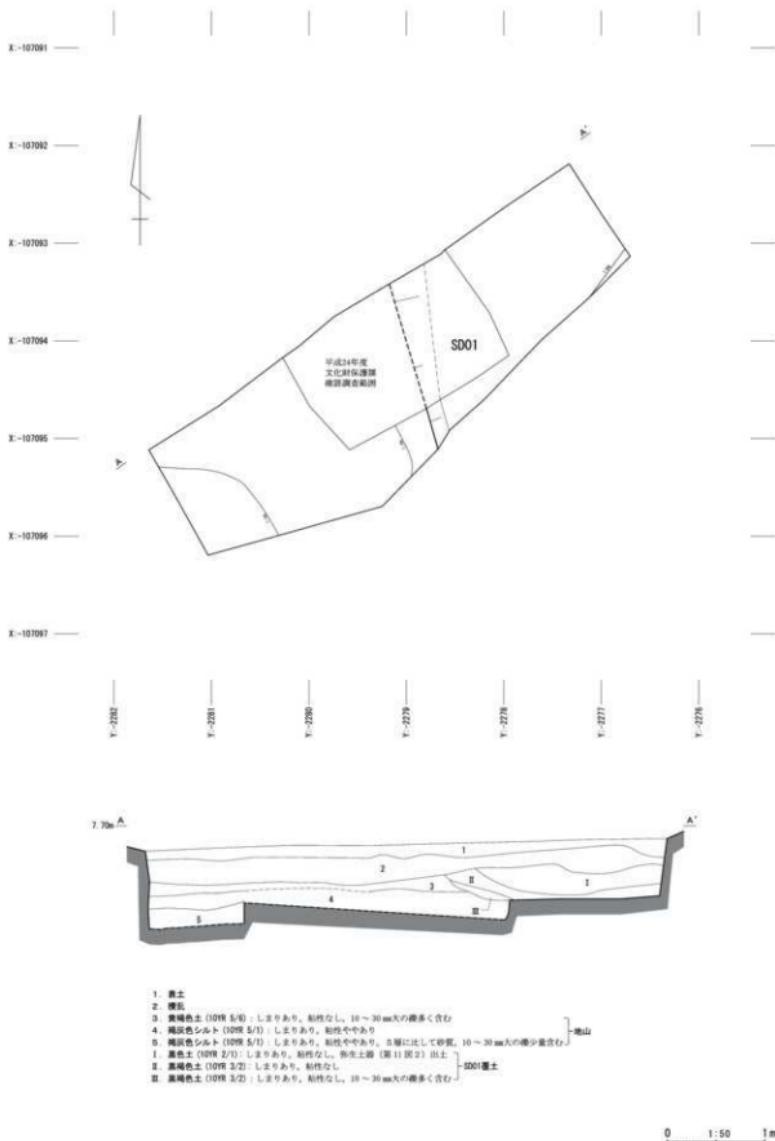
第5図 基本土層柱状図

### 第3節 遺構

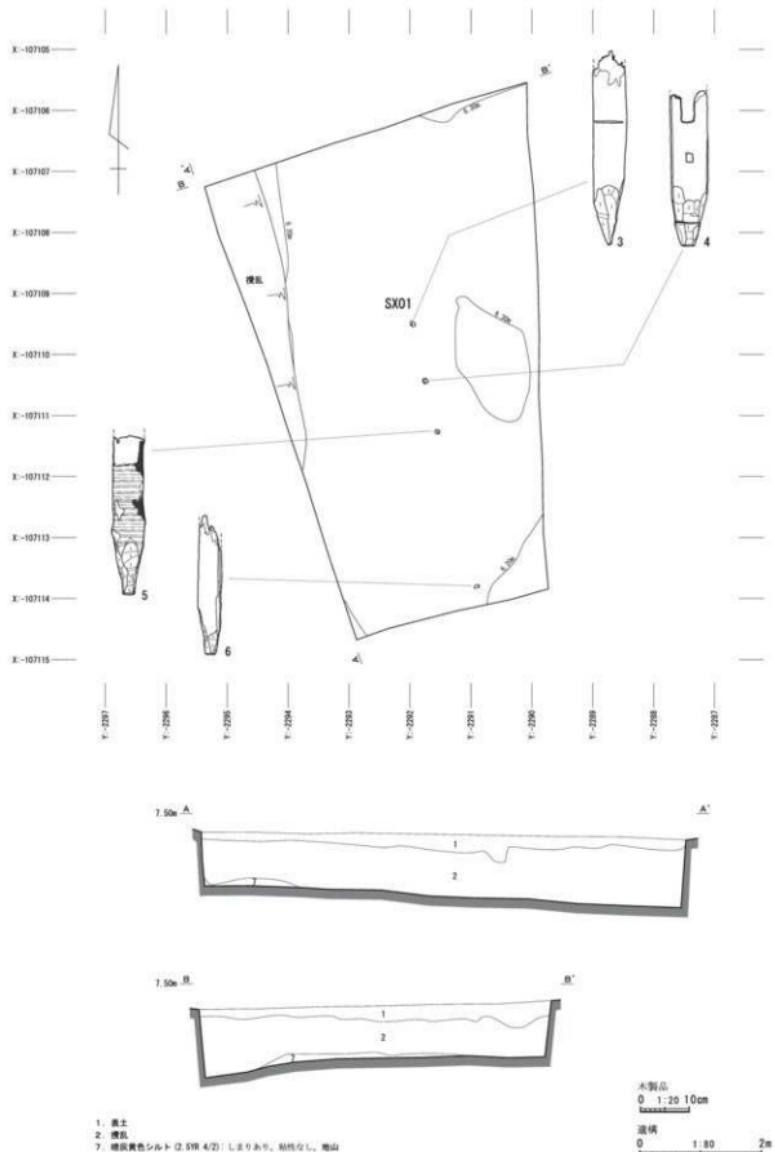
今回の調査では、3区で溝1条、4区で杭列1列が検出された。



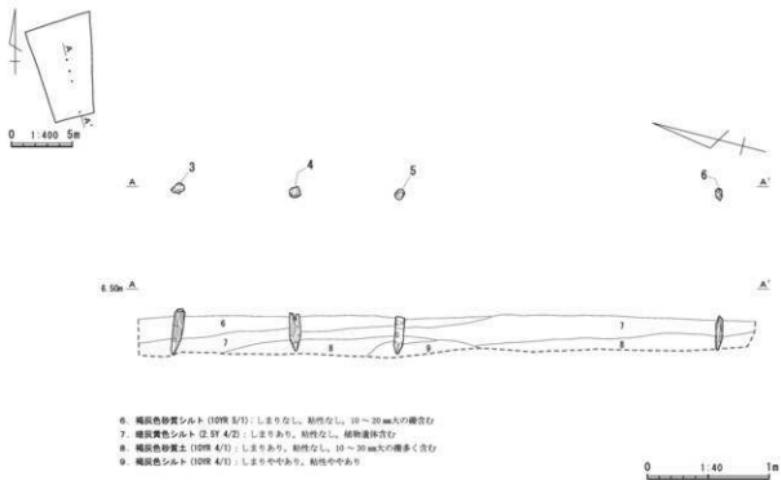
第6図 全体図（3区・4区・5区）



第7図 3区全体図



第8図 4区全体図



第9図 4区杭列SX01実測図

## 1 3区

### 溝 SD01 (第7図)

第3層上面で検出された。南北にのびる溝であると推定される。幅は残存値で2.1m、深さは0.3mをはかる。溝の西半部のみが検出されており、溝幅はより東へ拡がるものと推定される。溝の掘り込みは非常に緩やかで、断面形状はレンズ状を呈する。造構覆土は黒色土で、3層に分層できる。

遺物は覆土第1層で出土した弥生土器片（第11図2）の他、土師器片が数点出土した。

## 2 4区

### 杭列 SX01 (第8図・第9図)

第6層上面で検出された。4本の杭がほぼ一直線上に打ち込まれた、南北にのびる杭列である。主軸方位はN-14° - Wである。杭の打ち込みは地面に対してほぼ垂直である。杭の上端部は4本とも搅乱により欠損している。北側3本の杭は約90cm間隔で打ち込まれている。杭5と6の間隔は約2.7mをはかる。杭の下端部の標高は4本とも6.0m付近をはかる。杭6以外の3本の杭は直径7~8cmの芯持ち材を使用しており、規格性が窺える。

## 3 5区 (第10図)

調査区北側の大部分は個人住宅建設時に地盤改良材が埋設されており、この部分についての発掘調査は不可能であった。残存する南側についても、地表面から約1mの深さまで搅乱が及んでいた。検出面の土質は、しまり及び粘性のある黒色粘土 (10YR 2/1) である。この層が基本層序の第5層から第6層の間にに入る層なのか、あるいは第9層より下位の層なのかは明らかにすることはできなかった。遺構・遺物は確認されなかつた。



## 第4節 出土遺物

### 1 土器

#### (1) 繩文土器 (第11図1)

厚手で無文の縄文土器である。4区の擾乱層から出土した。中期のものと考えられる。

#### (2) 弥生土器 (第11図2)

台付甕の底部である。3区で検出された溝SD01の覆土から出土した。後期後半あるいは古墳時代前期まで下るものと考えられる。

### 2 木製品

#### 杭 (第11図3～6)

3～6は4区で検出された杭列SX01を構成する杭である。いずれの杭も上端部は後世の擾乱により欠損している。

3はスギの芯持ち材に杭状加工を施している。下端部は土圧により潰れている。下端部から25cm上の位置には幅5.8cm、深さ1.1cmをはかるノコギリによる切り込みが横方向に付けられている。

4は柄と柄穴がある建築部材を転用した杭である。スギの芯持ち材の両側面を切り落し、平坦面を作り出している。柄の位置に杭状加工を施している。上端部には正面から裏面に向かって貫通する2.7cm×5cm以上をはかる柄穴が残っている。さらに左側縁から2.7cm×4.2cm以上をはかる柄穴を穿ち、貫通させている。右側縁は非貫通である。正面には下端部から17cm上に1.4cm×2cm、深さ0.7cm、左側面は下端部から15.5cm上に1.8cm×2cm、深さ0.8cmをはかる非貫通の方形の柄穴が彫り込まれている。

5は表皮面に樹皮が残り、一部炭化している芯持ち材に杭状加工を施している。樹種はサカキである。下端部には2.5cmをはかる切断面がある。

6は径8cm程の丸太から割り出したスギのミカン割り材に杭状加工を施している。下端部には2cmをはかる切断面がある。

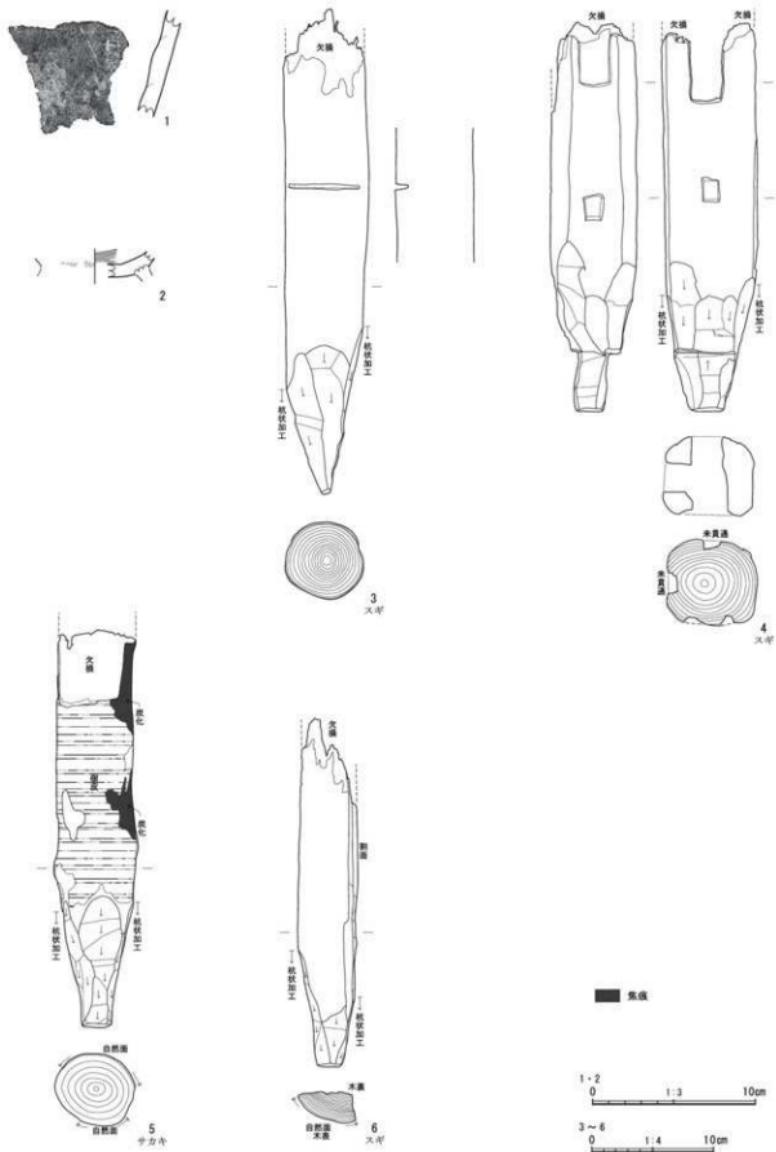
第3表 出土遺物一覧表（土器）

探査 No.	深度 No.	区	構造 層位	種別	器種名	口径 (cm)	高さ (cm)	調整・技法 の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	4	4	擾乱	縄文土器	深鉢			無文	白色・灰色粒子。 質地粗少	良	内:7.5YR 4/1褐色 外:2.5YR 5/6明赤褐色	
2	4	3	SD01 覆土	弥生土器	台付甕	(1.6)	ナデ・ハケ		白色粒子。 2mm灰色揮少	良	内:10YR 7/3(5)赤褐色 外:7.5YR 6/4(5)褐色	底部径:(6.7)cm

( ) は推定値

第4表 出土遺物一覧表（木製品）

探査 No.	深度 No.	区	構造 層位	分類群	器種名	器種 細分名1	器種 細分名2	年代	樹種	サンプル No.	最大径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
3	4	4	SX01	土木材	杭			中世	スギ	16172	29.7	6.4	6.3	
4	4	4	SX01	土木材	杭			中世	スギ	16169	31.8	7.5	7.1	
5	4	4	SX01	土木材	杭			中世	サカキ	16170	32.6	9.9	5.1	一部炭化
6	4	4	SX01	土木材	杭			中世	スギ	16171	28.5	4.6	2.5	



第11図 出土遺物実測図

# 第4章 静岡市大田切I遺跡出土木杭の樹種

鈴木三男（東北大学植物園）

静岡市清水区八坂西町・高橋1丁目所在の大田切I遺跡から出土した木杭4点の樹種を調べた。大田切遺跡はJR清水駅より北西に約1.5km離れた地点に位置し、標高5~7mの沖積平野である清水平野に立地している。ここでは中世に比定される遺跡群（掘立柱建物跡、区画溝多数）が検出され、今回樹種を調べた木杭は区画溝にあった方向に配列して垂直に打ち込まれていることから、この時期のものと推定されている。

## 同定された樹種

### 1. スギ *Cryptomeria japonica* (Linn.f.) D.Don ヒノキ科

写真1-1 a-c. (16172)

出土資料：杭3点 (16169, 16171, 16172)

保存性の良い年輪の明瞭な針葉樹材で、年輪幅は広く、広い早材部と晩材部を持ち、早材から晩材への移行は緩やかである。垂直、水平の樹脂道はない。樹脂細胞は主に晩材部に近いところにやや接線方向に連なって散在する。樹脂細胞内には黒褐色の物質があり、細胞の水平壁は平滑で薄いか、やや厚いが数珠状に肥厚することはない。放射組織は単列で柔細胞のみからなり、垂直、水平壁は平滑、分野壁孔は大型の梢円形で開孔部は厚いレンズ状となり、スギ型で、1分野に1~2個ある。以上の形質からスギの材と同定した。

スギは青森県から九州屋久島までの冷温帯から暖温帯に広く分布する針葉樹だが、日本海側と東海地方に多い。幹径2m、樹高35mを超える大高木となり、材は木理通直で割裂性がよく、軽軟で強靭、加工性がよく仕上げは中位であるが大材が多量に得られるので、建築材を始め、ありとあらゆる用途がある。静岡県地方では豊富なスギ天然資源を背景に繩文時代からスギ材が使われ、弥生時代~古代には大量のスギ材を使っており、中世の頃には天然資源が枯渇に向かっていたと考えられることから、本遺跡出土材は人工林の木材である可能性も考えられる。出土杭3点のうち、1点は丸木、1点は丸木でほぞなどがあることから建築構造材の転用、1点は丸木の割材である。

### 2. サカキ *Cleyera japonica* Thunb. モッコク科

写真1-2 a-c. (16170)

出土資料：杭1点 (16170)

薄壁で多角形の微細な道管が均一に分布する散孔材で、年輪界は全く目立たない。道管はほぼ単独で、管径は年輪界に向けてやや小さくなる。道管の穿孔は横棒の多い（40本ほど）階段状である。木部柔組織は単細胞の散在状で年輪内に均一に分布する。放射組織は単列の異性で、背は比較的高く、平伏細胞及び背の大変高い直立細胞からなる。これらの形質からモッコク科（旧ツバキ科）のサカキの材と同定した。

サカキは関東南部以西~九州琉球に分布する照葉樹林を特徴づける常緑小高木で、幹径20cm、樹高8mくらいになる。材は堅硬で肌目はやや粗く、強靭で割裂困難であり、萌芽枝がまっすぐによく伸びることから柄物に重用される。出土材は直径6.4cmの丸木の杭で年輪数が13ある。遺跡周辺に生育していたサカキで幹のまっすぐなものを伐りだして利用したものと考えられる。



1a. スギ 16172 木口×30

1b. 同 板目×60

1c. 同 横目×240



2a. サカキ 16170 木口×30

2b. 同 板目×60

2c. 同 横目×120

写真1 大田切I遺跡出土木製品類微鏡写真

## 第5章　まとめ

昭和57年度に実施された清水市教育委員会による発掘調査では、調査区南東部の微高地で掘立柱建物跡2棟が検出されている。これらの掘立柱建物跡の北側には、建物を区画したと考えられる溝が掘り込まれている。調査区の西半部は巴川に向かって緩やかに下がる低地であり、複数条の溝が掘り込まれている。この調査結果から、本遺跡は当時この地域の有力豪族であった飯田氏の居館に関係する遺跡と推測されている。

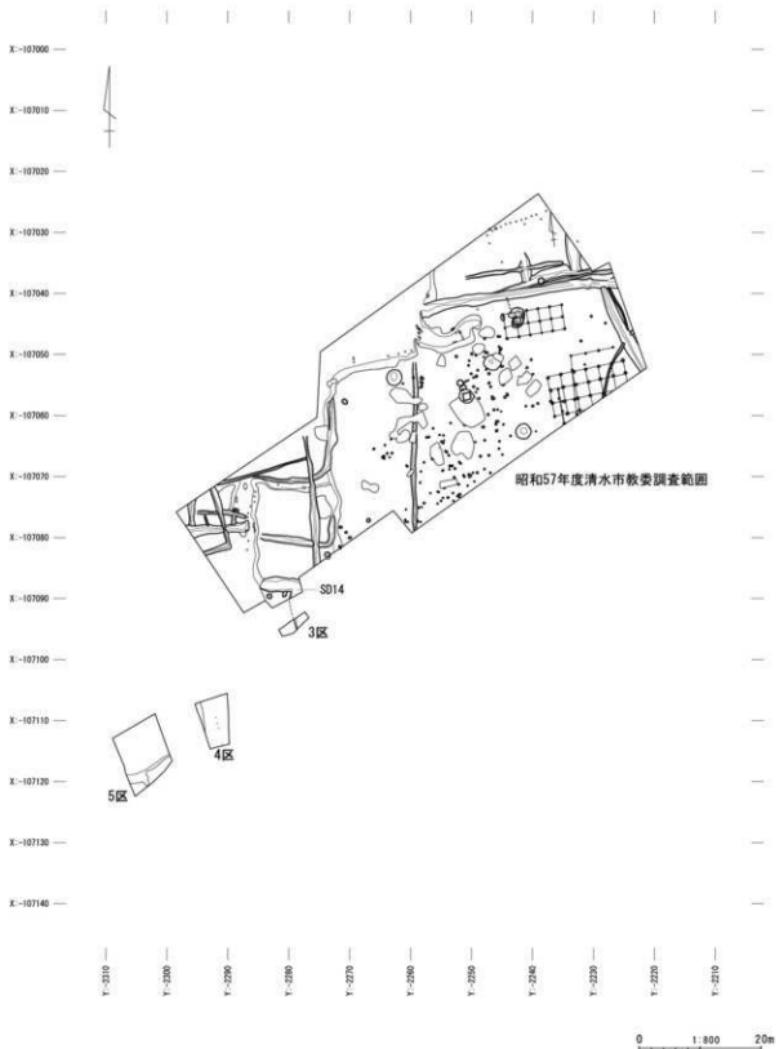
今回の調査対象地は静清バイパスの側道を隔てたすぐ南に位置し、昭和57年度の調査区の南西部に接している。昭和57年度の調査の全体図と今回の調査の全体図を照合したところ、今回の調査において3区で検出された溝SD01は、昭和57年度の調査で検出された溝SD14とつながる可能性が高いものであることが明らかになった（第12図）。今回の調査でSD01から出土している土器は、第11図2で示した弥生土器片や土師器片であるが、実際の遺構の時期は溝SD14をはじめとする複数条の溝と同じ時期のものと考えられる。

4区において検出された杭列SX01は、ノコギリによる切り込みが見られる杭（第11図3）が見られることから、中世以降の時期のものと考えられる。昭和57年度の調査では、調査区北東部で杭列が検出されている。この杭列は2棟の掘立柱建物跡の東西軸及び建物の北側に掘り込まれた溝と並行するものである。また、調査区北側中央部と西側では、地形の落ち込みに沿って杭が打ち込まれている。今回の調査で検出された杭列SX01もいずれかの性格を持つものと考えられる。

今回の調査によって、調査対象地は建物跡の西側に掘り込まれている溝の範囲に当たること、そしてこの溝がより南へ延びていることが明らかにされた。

### 〈参考文献〉

- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1989 「能島遺跡」  
静岡県教育委員会 1968 「東名高速道路（静岡県内工事）関係埋蔵文化財発掘調査報告書」  
静岡県教育委員会 1981 「静岡県の中世城館跡」  
静岡県教育委員会・清水市教育委員会 1984 「太田切遺跡 飯田遺跡」  
静岡県教育委員会・清水市教育委員会 1985 「下野遺跡」  
静岡市教育委員会 2005 「静岡市内遺跡群発掘調査報告書（平成16年度）」  
静岡市教育委員会 2008 「静岡市内遺跡群発掘調査報告書（平成19年度）」  
静岡市教育委員会 2010 「能島遺跡発掘調査報告書」  
清水市教育委員会 2000 「清水市内遺跡群発掘調査報告書（平成11年度）」



第12図 大田切Ⅰ遺跡全体図



1. 大田切Ⅰ遺跡遠景（西から）



2. 大田切Ⅰ遺跡全景（3区・4区・5区）

図版 2



1. 3区 溝 SD01 完掘状況（東から）



2. 3区 溝 SD01 土層断面



1. 4区 桁列 SX01 検出状況（北から）



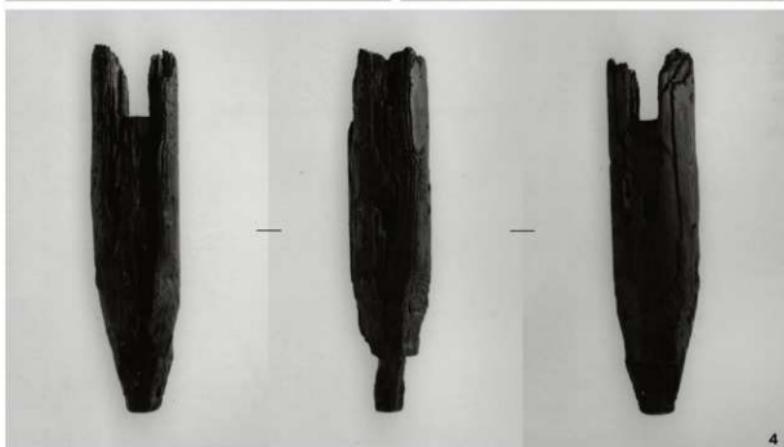
2. 4区 桁列 SX01 桁4 検出状況

图版 4

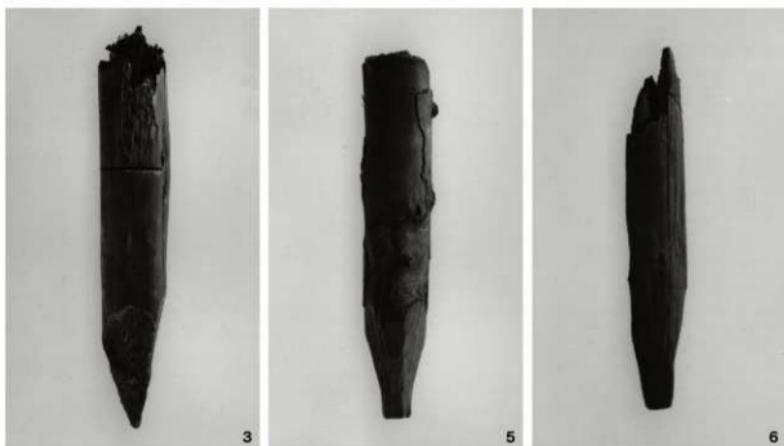


1

2



4



3

5

6

出土遗物

## 報告書抄録

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第52集  
大田切I遺跡

国道1号清水立体埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28年2月29日発行

編集・発行 静岡県埋蔵文化財センター  
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20  
TEL 054-262-4261(代)

FAX 054-262-4266

印刷所 みどり美術印刷株式会社  
〒410-0058 静岡県沼津市沼北町2丁目16番19号  
TEL 055-921-1839(代)